

コロナ禍に関するヒアリング結果

1 実施概要

① コロナ禍に関するヒアリング実施の主旨

市民団体や企業、事業者等を対象にコロナ禍が引き起こす生活の変化や、コロナ禍を超えて中長期的に求められる都市空間について意見を収集し、都市計画マスタープラン改定に向けた基礎的な資料とする。

② 対象・実施日時

<出張座談会>

No	分類	実施日	団体名称
1	市民団体等	2020年7月17日	NPO 法人 市民まちづくり会議 むさしの
2	2 団体	2020年8月6日	在宅医療介護連携支援室
3	企業等 1 団体	2020年7月20日	横河電機株式会社
4	商業・事業者 6 団体	2020年7月13日	市内の交通事業者
5		2020年7月28日	武蔵境商店会連合会
6		2020年7月29日	吉祥寺活性化協議会
7		2020年7月29日	株式会社セブン-イレブン・ジャパン
8		2020年7月31日	株式会社イトーヨーカ堂
9		2020年8月6日	中央地区商店会連合会
10	意見募集箱 1 通	2020年7月1日 ～7月31日	市内在住・在勤・在学者
合計 9 団体 36 名			

<事業者ヒアリング>

実施時期 : 2020年7月

ヒアリング先 : 不動産事業者

③ 主な意見

<出張座談会>

項目		内容
将来像		<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は地域活動もまちづくりも画一的で強制されるものではなく、自由に選択できることが重要になるのではいか。
土地利用	公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>過密を避けるため、ゆとりのある空間が必要。今後もソーシャルディスタンスに配慮した生活が続くだろう。</u> ・ 公共施設以外の活動空間の確保が重要。 ・ 医療や福祉施設に隣接するオープンスペースを検査所等に活用できるとよい。 ・ 都市にゆとりも大事だが、生活する市民の意識も重要。情報が溢れる社会だが、正しい情報を得て、自分で考え行動するために、対面で情報交換ができる場が必要ではないか。
住環境	住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染を避けて集合住宅から戸建住宅を選好する傾向もあるのでは。
	福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミセンが閉鎖されたことにより高齢者の居場所がなくなった。老人ホームに通う必要のない、非常時の健康な高齢者の居場所を考える必要がある。
道路・交通	道路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 密を回避するため飲食店の外（道路等）で飲食可能な空間が必要。
	交通	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で利用が増加している<u>自転車の空間整備が必要</u>。ウーバーイーツなど配達自転車の増加しており、地域のルールを決める必要がある。 ・ バス事業においては、緊急事態宣言中の売り上げは6割減、宣言解除後は3割減ほど。会社員や大学生のリモート化が進んでおり、今後も継続されるとすると、コロナ前に戻ることはないという前提で事業を進める必要がある。 ・ タクシーにおいては、運転手が高齢なため感染リスクが高い。緊急事態宣言中は7割減の稼働、宣言解除後は3割減程の稼働。以前は深夜が稼ぎ時だったが、今は利用者が全くない日もある。 ・ 地方と比べ都内はバス利用者が多いため、バス利用者が自転車に転換するにはまだ良いが、自家用車に切り替えると交通への影響は大きい。避けるためにどうすべきか考える必要がある。
緑・水・環境	公園	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>住宅地の公園や少し規模の大きい公園の重要性が高まっている。</u> ・ テレワークの浸透により、多世代・多目的の利用を想定する必要がある。
防災 (危機管理)		<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍を踏まえた避難所の設置の仕方も重要。 ・ 緊急時に本市は農地や工場など生産の場が少ない。物資の不足に備え、市外への依存を減らせる工夫が必要ではないか。 ・ できるだけ地産地消するため、果実のなる街路樹や市民農園を増やし、地域と協力して育て、供給できる仕組みが必要。

にぎわい・活力	オフィス空間	<ul style="list-style-type: none"> ・アフターコロナもリモートワークを併用して出勤率を下げる可能性も高く、今後はオフィス面積の縮小なども検討課題となるのではないかと。 ・リモートワークはワークライフバランスの面でメリットも多いが、<u>職場に<u>いること</u>で、小耳にはさむような情報やちょっとしたアイデアを出し合うなどのコミュニケーションが不足しがちになる。</u> ・今後は自席で働くオフィスより、オフィス内でフリーに働く場を選べるようなワークプレイスの変革が求められるのではないかと。 ・オフィスが都心から離れる傾向にあるので、コワーキングオフィスやサテライトオフィスの需要を市内に取り込めるとよい。
	商業	<ul style="list-style-type: none"> ・休業手当や給付金など助かっているが、今後どうなるかわからない。<u>商店街は非常に厳しい現状。</u> ・ネットで買い物を済ませる人も増え、<u>商業地は物販だけでなく市民が余暇を楽しむような魅力ある空間となることが重要。</u> ・高齢者は人が多いスーパーに行くことを躊躇っているため、<u>移動販売があるとよい。</u>また、移動販売車を停車するスペースについて仕組みがあるとよい。 ・緊急事態宣言が解除されると、常連が助けに来てくれる店もあり、<u>人と人のつながりが重要と認識した。</u> ・働き方などは加速的に変化しているが、商店の建物更新は新たな投資が難しく後る倒しになるだろう。
	活力	<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺をはじめ、<u>会社員や大学生が減りにぎわいや交流がなくなった。</u>22時以降のまちの様子は顕著に変わった。まちから外国人が明らかに減った。 ・リモートワークの定着により現役世代が地域に定着し、<u>まちを良くしていこうと思う人が増える期待が持てる。</u> ・今まで地域と関わりのなかった人が自然と関われる仕組みがあるとよい。 ・コロナでオーナーが代わることもある。<u>個々のオーナーが自分のことを考えるのではなく、まちのことを考えて行動しなくては良い街にはならない。</u>今のうちから権利者とコンセンサスを取り、方向性を決めておけるとよい。

<事業者ヒアリング>

項目	内容	
将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・以前から見込まれていた働き方、移動、購買などがコロナにより加速的に変化した。大きく社会が変わったが、それによって<u>将来が大きく変わったということではなく、以前から言われていることが前倒しになったと</u>考えている。 	
にぎわい・活力	オフィス空間	<ul style="list-style-type: none"> ・人と人のつながりや対面関係を重視した職種は都心部を中心に一定程度残るだろう。
	商業	<ul style="list-style-type: none"> ・空テナントが増えるので店舗拡大を検討している事業者も多い。(特に1階)
	活力	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>地域の個性や強み、特徴、歴史的な背景など地域を分析し、強みを生かした街づくりが必要。</u>